

内閣 国立白門会ニュース

第 18 号

国立市富士見台1-1-201

村田 亘 75-2020

印刷

真美巧芸 37-2536

川添学長を盛大に10周年式典



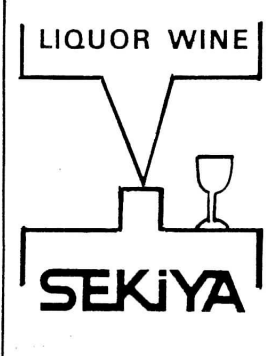
中央大学国立白門会創立十周年記念 S63.6.12

第十一回定時総会 同時開催

あいにく雨となった六月十二日(日)、定時総会に合わせ支部の前身である国立白門会の創立十周年記念式典と祝賀会が行われた。

午後二時すぎ開催の定時総会は、風間俊範副幹事長が司会して、福谷実副支部長が開会を宣し、村田亘支部長の挨拶があった。

村田支部長は、支部誕生に至るまでの困難な道を回想し、故池田由太郎先生の並々ならぬ肝入れに対して追懐の思い出深い感動的なお話をされた。来賓は、母校学長として初めてご出席の川添利幸学長から親しみあるお祝いのお言葉を頂いたが、大学関係のご報告で、①昨今の学生気質は組織への関心は薄いが、さる六月四日朝日紙に報道された中大生の自転車によるオーストラリア大陸横断という快挙にみるように、きつかけを与える若者らしい底力を発揮すること、②父母会との結び付きを強めたため学員会への協力に役立ってきたこと、③進学人口減少の中で新しい中



大像作りに長期計画を推進中である。とのスピーチに盛大な拍手が送られた。

堂野達也学員会長のやむを得ないご欠席から松井宣副会長が、また関孝八王子支部長からもそれぞれ心温まるお祝辞を頂戴して、出席者一同の拍手が大きく沸き起こった。

総会は能味常任理事が議長席につき、丸本大幹事長、堀田勲会計、宍戸勇之監査によって諸事円滑に取り運ばれ、荒木繁幸副支部長が閉会の辞を述べて終了した。引き続き記念式典が営まれ、丸本幹事長が経過報告をかねて挨拶し、来賓としてのお馴染み深い阿部輝男学員会事務局長はじめ五十嵐栄治立川支部長と内田清日野支部長が、印象的なお祝いの言葉を下さった。

注目の功労者表彰は、村田支部長が特別表彰を受けたほか、井上定男副支部長以下六名に表彰状を、中西旭・市橋千鶴子・谷清・酒井博の各顧問と四十名の方々に感謝状が贈られた。受賞者を代表して能味広報部長がお礼の挨拶を述べ、閉会の辞は山崎武厚生部長が結んだ。

記念写真を撮り、固苦しい行事が一巡した後、三卓の中国料理を囲んで楽しい祝賀会が持たれた。午後四時半頃、小林治厚生部理事の司会で始まる。酒井顧問が開会の一言に次いで市橋顧問が乾杯の音

頭をとられ、作家の志茂田景樹氏や市議の井上正博氏らがお祝いのスピーチ。また貴重な平本聖子さんにも盛んな拍手。地元桃正飯店提供の紹興酒も好評でそこに談笑が渦巻いた。午後六時半近く小島泰義組織部長が校歌をリードし、山村鶴音事業部長がめでたくこの夜の幕を引いた。

ご来賓と出席者全員には、創立十周年記念誌「はばたき」と記念品「白石大二編「例解辞典」が贈呈されたが、同誌の編集および調達に当たった福谷副支部長と(株)ぎょうせいの伊藤陽司事業部理事の労を多としたい。(寿)

各地でにぎわう

支部総会と白門会

〈白門婦人会〉
梅雨空の中、六月二十五日白門婦人会の第十九回総会が開かれた。同会の市橋千鶴子会長は国立白門会の顧問でもある。

〈名古屋支部〉
明治三十一年十二月十日に発足した名古屋支部は本年で創立九十周年をむかえる。歴史の重さを感じる。

〈三鷹〉
三鷹市では支部設立に向けて準備が進められていたが、七月二日に白門会としての創立総会が開催された。

おめでとー！新倉良平さん

十月一日(土)東中野の日本閣において、我が国立白門会の若き役員新倉良平さんが、阿久津陽子さんとご結婚されました。当日は、前日までのうっとうしいお天気が嘘のようになさわやかな秋晴れに恵まれお以合いのカップルの祝宴にふさわしい佳き日となりました。

ウェディングベルは高らかに

午後二時からの式は、キリスト教形式で行なわれ、腕を組んでバージンロードを進まれるお二人の少し緊張気味の横顔が、新鮮な喜びに満ちあふれているようでした。そのあとの披露宴は、風間



男らしい新郎と美しい友里恵スタイルの陽子さん



ニューカップルを囲んで、仲間の笑顔

俊範副幹事長の司会で行なわれ、陽子さんが選曲されたという、ベッヘルバツハのカノン主よ、人の望みの喜びよに乗って新郎新婦入場、満場の祝福の拍手の中、ご媒酌の労をとられた能味寿哉広報部長ご夫妻と共に雛壇に着席されました。能味広報部長から、新郎の良平さんは、国立市屈指の工務店の御曹子として、将来を嘱望される青年で、新婦の陽子さんは、フェリス学院短期大学をご卒業後、日本光学工業(株)一現、(株)ニコンにお勤めになられ、美しく有能なOLであったとご紹介がありました。又、お二人が今年の一月に運命的



素晴らしかったケーキ入刀



心弾んだキャンドルサービス

な出合いをされてからのロマンスのエピソードが語られ、会場の微笑を誘いました。大きなウェディングケーキに新郎新婦が入刀を行なうと待ち構えていたようにフラッシュがたかれ、お二人の初仕事をカメラにおさめました。良平さんも陽子さんもカメラに笑顔に向けて、緊張の中にも少し余裕のあるところをのぞかせていました。

感杯で乾盃
地元の衆議院議員小沢潔氏より、お祝いの色紙が届けられ新郎に手渡されました。佐伯茂氏の乾杯の音頭に続き、村田亘支部長から「よい家庭を築き、これからも変わらぬ白門会で活躍して欲しい」とのご祝辞がありました。新婦側の主賓中島秀雄氏のご祝辞に続き、北海道ご出身の堀田勲さんは「恋の街札幌」を感情を込めて歌われ、山崎武さんはお祝いの席にふさわしい「黒田節」で祝福のお気持ちをお伝えされました。又、小林治さん、高橋雅幸さん、平

本聖子の独身三人が、大きなお祝いの気持ちと、ちよつびりの嫉妬心を込めて「この広い野原いっぱい」を歌いました。**二人の炎は永遠に**
新婦は純白のウェディングドレスから、ばら色のドレスにお色直しをして、新郎と共にキャンドルサービスにまわりました。良平さんにエスコートされ、皆のお祝いの言葉に頬を紅らめながら答える陽子さんは、初々しくとてもお綺麗でした。新郎新婦のご親戚のお子様達からかわいらしい花束贈呈の後、再び席につかれたお二人に、新婦のお友人達からのユーモアにあふれたスピーチや素敵な歌、又遠藤修三氏の心のこもったスピーチがあり、会場を盛り上げました。

か、ちから、かの祝福
当日出席出来なかった顧問の谷清国立市長、広報部の金子さんをはじめ、多数の方々からの祝電が届き司会者が読みあげると、宴も佳境に入り、新郎新婦の前途を祝し、中央

大学出身者全員で、中央大学応援歌を力強く歌い、新郎新倉さんを胴上げしました。宙に舞う新倉さんの最高に幸福そうな笑顔が印象的でした。最後に、新郎のお父様新倉昇さんから気持ちのこもったご挨拶があり、微笑と涙のうちに華麗で心のこもった祝宴の幕が閉じられました。
(平本聖子)

新郎 新倉さんへ ひと言葉メッセージ

ご結婚おめでとーございます
お幸せをお祈りしています
市橋千鶴子顧問
感激をいつまでも
丸本大幹事長
愛とは犠牲なり
風間俊範副幹事長
結婚はお互いの負担なり
高橋雅幸



学員会 創立百周年

記念式典・祝賀会の大要決まる

豪華景品が当たる祝賀会

本年十月二十一日に創立百周年を迎えた学員会は、記念式典と祝賀会を十一月二十日(日)に神田駿河台の中央大学駿河台記念館で開催することになっているが、このほど式典・祝賀会の実施要領がほぼ固まった。

とき 昭和63年11月20日(日)
ところ 中央大学駿河台記念館
(東京都千代田区神田駿河台3-11)

式典

開会の辞 学員会副会長 井上達雄
黙禱(物故学員)
式 辞 学員会会長 山本清二郎
祝 辞 中央大学学長 川添利幸
総長職務代行
功労者表彰
講話
校歌斉唱

祝賀会

閉会の辞 学員会副会長 森田重郎
開会の挨拶 学員会副会長 野村権之亮
挨拶 学員会会長 堂野達也
祝 辞(学員代表)
乾杯
祝宴
抽選会
万歳三唱
中央大学評議員会
長 富田光秀

学員会の創立百周年を記念する式典は、十一月二十日午前十一時から駿河台記念館で行う。式典は招待者のほか、学員会役員と学員会支部の支部長・幹事長などを中心としたセレモニーになるが、この中で学員会の発展に功績のあった者に対する功労者表彰と学員による講話を行うことになっている。十月中に、関係者約一千名に案内状を送ることにした。

式典終了後、正後より同記念館において祝賀会を立食パーティ形式で催すが、学員会の創立百周年を祝う祝典としてはこちらが当日のメイン。卒業生ならだれでも参加することができ、夫人など家族同伴も大歓迎としている。

記念事業

- ① 学員の美術作品の募集と美術展の開催
- ② 記念会報の発行
- ③ 記念講演会の開催
- ④ 記念植樹の実施
- ⑤ (財)白門奨学会への協力
- ⑥ 中央大学史料展の開催(八王子その他)

が当たる福引き。現在までに鈴木自動車、パイオニア、河合楽器、東京コカコーラポトリング、キリンレモン、大塚製薬、三菱地所、三洋電機特機、ホテル白門会などのほか学員が活動する多数の企業から製品提供の申し出があり、また、学員会支部からも提供があった。抽選会は楽しいものになりそう。また、当日の参加者全員に記念品を用意している。

会場となる駿河台記念館は十月いっぱい完成の予定で、十一月十六日(木)に大学では竣工式を行う予定にしているが、学員会の創立百周年を祝う式典・祝賀会は記念館の事実上「こけら落とし」になる。

ソウル五輪へ12選手

第二十四回オリンピック・ソウル大会に参加した中央大学関係者は、選手が十二名、公開競技の野球に一名、監督を含めて役員が七名でした。重量挙げの真鍋和人選手は前回ロサンゼルス大会では52kg級銅メダルでした。

ボートでは六名が選ばれ、内四名がエイトのメンバーでした。エイトは記録的には国内記録より良かったのですが、上位入賞にはなりませんでした。その他、ハンドボール、バレーボール、フェンシングに出場しました。

◆ 漕艇部
エイト三冠を達成
八月二十七日、ボートの第66回全日本大学選手権エイト決勝で、中大は東大に雪辱、二年ぶり五度目の優勝を果たした。翌二十八日の第15回全日本選手権決勝では、オリンピック代表クルーの記録を凌駕する六分〇秒〇九の好記録で優勝し、二年連続三度目の栄冠に輝いた。また、オックスフォード盾レガッタエイト決勝でも優勝し、中大は見事「エイト三冠」を達成した。

全日本学生剣道

◆ 剣道
剣道の全日本学生優勝大会は十月二十三日、大阪で五十

六校が参加して行われ、中大が三年ぶり十度目の優勝を飾った。決勝は関東、関西大会の優勝校同士の激突となったが、中大が前半に3勝を稼ぎ、反撃する大體大を3-2の小差で振り切った。

◆ ライフル射撃
関東学生選手権大会(埼玉・朝霞射撃場)にて、中大は以下の成績でした。
▽個人エアライフル 三位
▽同スモールボア 一、三位
▽団体エアライフル 一位
▽同スモールボア 一位
▽総合 一位

◆ 国立画廊めぐり
国立にはユニークな多くの画廊があります。そのうちの一部をご紹介します。
秋も深まり樹木も色づき、一刻を芸術の世界に置くのも楽しいものです。
ギャラリーESOLA(エソラ)
東・三小通り草舎ビル1F
たましん美術サロン
中・大学通りたましん6F(臨一三三)
ギャラリーDAIMASU(ダイマス)
国立駅前大増ビル6F(三三五)
くにたち市民芸術ホール
市役所西側 高155

祝賀会の参加申し込みは、10月21日で締切られました。

秋のバスハイク 清流に紅葉探訪と

水戸黄門の西山荘へ

午前七時半、恒例の場所を出発した一行二十三名同乗の小泉レンタバスは、中央高速から常磐自動車道を利用。那珂インターでおり、奥久慈溪谷に向った。

茨城・栃木・福島の三県の県境に聳える八溝山からほとばしる清流が作る日本三大瀑布の「袋田の滝」に圧感。次いでそこから一時間半の常陸太田の西山荘に向かい水戸光圀（黄門）が大日本史を篇さんしたた住まいに触れ、時の悠久さに酔った。

一 水園現建物最後の納涼会

平年より八度も低く肌寒かった七月二十三日（土）、恒例の納涼懇親会が開催された。一橋大学東門からいつものドライブコースで、午後五時近くに会場到着。毎年お世話になった一水園も今年限りで取りこわしになるという風間副幹事長のご説明に、皆さん改めて素敵な眺めの庭と池の辺りを散策し、記念写真におさめた。池の景観を楽しめる広い和室で、山崎厚生部長の開会の言葉と福谷副支部長のご挨拶で幕があき、能味広報部長の音頭で乾杯。ゆったりと

寛いだムードの中で、一つ一つ皆さんからの近況報告。村田支部長が腹痛のためご出席にならなかったのは惜しまれたが、にぎやかなお話が次々にわいて、笑い声の尽きない楽しい時が流れた。四か国十三日間の旅から帰国したばかりの能味さんの思い出話は私にも大きな夢を持たせてくれ、お土産の高級スコッチ、ロイヤルクラウンの水割りは格別の風味があつて人気を呼んだ。又、国立支部の価値ある独身男性の一人新倉良平さんが、このほど結納も済み、いよいよ秋にはゴールインというトピックがうれしい話題となり新倉さんはしきりにもてはやされていた。岡田画伯のバルセロナ礼賛のお話も楽しかった。そして国立市議の井上さんは、ご出身校である地元の国立高校と堀越学園の明日の対戦を熱っぽく語られ、国立高校の甲子園進出への期待を込めていられた。丸本幹事長も日頃のお忙しいお仕事を忘れて皆さんと談笑され、堀田さんも楽しくお酒を酌み交されるなど、酒興は一段と盛り上がりつつあったが、珍しくカラオケは出ずじまいで、午後八時近くにお開きとなった。国立駅に向けて走るマイクロボスの窓は、降りやまない小雨にくもっていた。

(聖)

活動予定のご案内

一、白門囲碁大会

日時 十一月十三日（日）
午前十一時から
場所 (株)せきや 事務室
国立市中一八七
会費 無料 昼食準備あり
連絡先 山崎 三三三
関 三三三

競技は会長杯争奪戦トーナメント方式で行ないます。今年には国立白門会創立十周年を記念して賞品も豪華です。奮ってご参加下さい。

活動報告

◆ 十月二十二日（土）、秋の親睦日帰り旅行会が実施されました。

◆ 十月十三日（木）、相模原CCでゴルフ・コンペが開催されました。

緊急

お知らせ!?

十一月五・六日（土・日）の両日に秋の市民まつりが開催される予定でしたが、諸般の事情により中止となりました。例年通り国立白門会も六日の日曜日の出店に合わせて準備中のところ取り止め、来年の出店に向けて用意をしておきたいと思えます。会員諸氏皆様方の今後のご協力をよろしくお願いいたします。

尚、会場には駐車場がございませんので、車での来場はご遠慮下さい。

二、新年会

日時 六十四年
一月十四日（土）
午後五時三十分
場所 信濃路
富士見通り音高東側
会費 五千元（会場にて）
申込 山崎 三三三
一月十七日まで

◆ 七月二十三日（土）午後二時からダイヤパレス集会所にて、「あれこれ考える会」が次のように開催され、引きつづき、場所を八王子の一水園に変えて、納涼会が行なわれました。

あれこれ考える会

七月二十三日（土）、ダイヤパレス集会所にてあれこれ考える会が開かれた。出席者は少なかつたものの、議論沸騰特に話題となったのは駅前自転車の乱雑な放置ぶり。国立市はかつて駐輪ワーストワンでしたが、駐輪場建設等で汚名は返上しましたが、まだまだ問題は多いようです。

おわびと訂正

前号掲載の「創立十周年によせて」の執筆者は学会事務局局長阿部輝男氏ではなく、学会会長堂野達也氏でした。

今年五月二十一日に、白門会創設十周年を迎えました。六月の総会では十周年を記念して功労者の表彰、また「はばたき」という小冊子を発行しました。川添学長はじめ各方面の方々から祝辞をいただき、国立白門会の一層の発展の励みとなりました。

「はばたき」は福谷副会長が中心となり、幾度のスタッフ会議を経て、会員である伊藤陽司氏が勤務されている（株）ぎょうせいで印刷されました。企画から発行まで短期間で行なわれ、会員諸氏の努力の賜物であると思います。

国立白門会
創立十周年記念誌

はばたき



中央大学学生会国立支部

人は一生に三度、鐘が鳴る時があるそうです。一度目は生まれた時、二度目は結婚した時、三度目は死んだ時です。国立白門会は一度目は五十三年に鳴りました。二度目は記念として節目毎に何度でも鳴らしましょう。そして三度目は永遠に鳴る事なく、白門会ニュースも一層充実していきたいと思います。最後にいつも発行間際に持ち込んでご迷惑をおかけしている真美巧芸さんに感謝の気持ちを表します。